

日本企業のコーポレート・ガバナンスの変遷

昨今、世界の各国、各方面で盛んに議論されているコーポレート・ガバナンスの問題は、企業の「統治機能」を制度として企業組織の中に、どのように構築するかという問題である。それは、経済と社会を安定させ成長させる大きな推進力である企業が効率的に運営され、その成果が、持続的に資本出資者である株主をはじめ、各種の利害関係者に公平にして透明な方法で配分されるような「統治機能」の構築がいかに重要問題であるかを物語っている。

日本も敗戦から半世紀を超える経済再建と高度成長、それに続くバブルとその崩壊、そのどん底からの立ち直り努力の過程の中で、商法改正を繰り返しながらこの問題に真剣に取り組んできた。その間の具体的な出来事（不祥事件、金融スキャンダル、取締役の高額報酬問題）やグローバル化の進展に伴う外国人株主（個人投資家、機関投資家、各種のファンド）の圧力に対処するためのコーポレート・ガバナンス制度の構築の努力と変遷を辿りながら、その今日的意義を考えてみたい。

企業の“統治機能”構築の今日的意義

2010年

11月6日(土)

13:30~15:00

九州情報大学

太宰府キャンパス

2号館 265 教室

入場無料

講師

市村昭三氏

商学博士 九州大学名誉教授 九州情報大学名誉教授
現 東明館学園理事長

参加申し込み・お問い合わせ

九州情報大学 学術研究所 818-0117 太宰府市宰府 6-3-1

URL: <http://www.kiis.ac.jp>

TEL: 092-928-4000 FAX: 092-928-3200

主催：九州情報大学学術研究所 経営情報センター

※ 当日、直接来場されても入場できますが、収容人員（約150名）の制限がありますので、できるかぎり事前に参加申し込みをお願いします。
※ 当日は、本学キャンパスにおいて学園祭（紫苑祭）が開催されています。
※ 西鉄太宰府駅よりスクールバスが運行しておりますので、ご利用ください。
※ 不明な点がありましたら、左記にお問い合わせください。